

理事長 PART 対 4 談



宇田川 隼君

Jun Udagawa

公益社団法人相模原JC 2019年度理事長

多様な価値観の時代こそ ブレずに前向きに楽しむことが必要

塩澤 去年、東京JCの政策委員会では例会も一つの運動の中のワンタイムとして考えるようにしました。

宇田川 相模原JCも今年から市民に対してポジティブな波を起こすために、同じ形で年間の運動にストーリーを持たせるようにしました。その運動も一つの点ではなくて線という考え方。例えばSDGsは、運用よりも審議を重視して推進に関する運動議案などを通年で考え、3月に起爆剤となる例会をして、さら

に推進につなげる。そして次年度に引き継ぐ継承運動としています。

塩澤 そうしないと本当に意味のない単発のお祭り。仕組みも含めて果敢に取り組むべきかなという気はしますね。

宇田川 確かに。入会当初はルール徹底に価値を置いていたが、「何のために」「何の価値」を守るためのものなのかという点にたどり着いた。JCのルールは歴史あるものですが、既存のルールを最大限活用して、よりよい

価値を作るのが大事だと思います。

塩澤 我々も長い歴史のなかで「ルールが正義」となっていた部分があると思うのですが、「JCでやることとして、ルールを守ることが本当に人間の成長になるのか」が最終的に大事だと思えます。何が重要で、何によって僕は成長できるのかを最終的に見つけなくてはいけないですね。東京JC 25・30・35周年の時には「我々は青年経済人の団体であり、経済団体としての意義を保ちながら、非常に多様な人を入れるべき」という主張がされていますが、この時から多様性を持つべきということが言われています。

宇田川 多様性はすごくいい。一つの価値観では周囲へのインパクトは限られてしまう。SDGs自体が誰一人取り残さない社会ですから、色々な考えを組み合わせて生まれる価値は大事です。

塩澤 SDGsも、バッチをつけて行動するのはインパクトはありますが、「私は社会をよくして経済をよくするんだ」という筋が通っている話でも取り組む僕らがきちんと考えないと間違った

方向へ行ってしまう。

宇田川 ブレてはいけない部分ですよね。それを起点として「本分」を見つけてもらう。人は自分が生きる意味や軸が分かった時に前に進めると思うのです。私は若い頃、頭でっかちに物事を考えるタイプでしたが、自分が誰よりも徹底的に楽しめば次の世界が見えてきて、ポジティブチェンジできることを知りました。今は皆に学びの場を与え、結果を出してあげること。「あと二歩進んでみたいな」と思える原動力を皆が知り、続けていけるようにしてあげたいなと思っています。

